

教育力向上ワーキンググループ 会議録

1 日 時	平成26年8月12日(火) 15:00～16:30
2 場 所	新居浜市役所3階 応接会議室
3 出 席 者	<p>浦江賢治座長、一色明繁委員、今西光昭委員、森直子委員、渡邊誠一委員、橋川隆至委員、坂上公三委員、吉田達哉委員</p> <p>木村和則委員(事務局長兼教育力向上戦略監)、眞鍋育朗委員(総括次長兼社会教育課長)、横井敏行委員(教育委員会事務局次長)、加藤京子委員(学校教育課長)、尾崎洋子委員(子育て支援課主幹)、篠原絵里委員(総合政策課主任)</p>
4 傍 聴 者	3名
浦江座長	<p>お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。早速前回に続いでの話し合いをさせていただけたらと思います。第1回、第2回にたくさんの御意見いただきましてありがとうございました。まず今日の話し合いに先立ちまして第1回、第2回の話し合った内容について、事務局の方でまとめていただいていますので、木村委員さんの方からまとめた内容について御報告いただけたらと思います。よろしくをお願いします。</p>
木村委員	<p>では、お手元に前回会議までのまとめということでA4の資料をお配りしています。1回目、2回目と教育力向上ということで皆さんの思いということでいろんな御意見をいただきました。それをある程度まとめないと、ちょっと話が進まないかなと思ひまして、事務局の独断にはなるのですが一応9項目の形で整理をさせていただきました。中にはこれだけでなく二つの項目に係るというものもたくさんあるのですが、とりあえずは1項目には該当するようにはさせていただきますのでお目通しいただいたらと思います。9項目に分けたのですが、事務局の思いで分けさせていただきましたので、項目がこの項目とあの項目はあまりにも大きさが違うよね、というまとめ方にもなっておりますので、また、この第3回以降いろいろご議論いただけたらと思います。</p>
浦江座長	<p>今日の会の進め方なのですが、時間は1時間半程度を考えさせていただいて、内容としてはまずは、最初にこのまとめていただいた第1回、第2回の内容について目を通していただく。全体的に何か御意見等がございましたらその意見を出していただく。その後、この項目の状態によければ、この項目の一つずつについて、もう少し具体的に詰める話し合いをしていただくということで、時間が1時間半でしたら最後まで行けるかどうか分からないですけども、もし行けなかったら第4回以降に回すということの会の進め方でよろしいでしょう</p>

<p>浦江座長</p>	<p>か。では、それで進めさせていただきます。内容がたくさんありますので、それぞれ目を通していただけたらと思います。</p> <p>大体一通り目を通していただけたでしょうか。項目としては9項目ありまして今回この項目を順番に一つずつということによろしいですか。ただ全体的に第1回、第2回と御意見をいただきましたけども、ここにあるものについて更にちょっと突っ込んだ御意見、あるいは前回までに出てなかった御意見があればそれをお聞きしたいんですが。いかがですか。</p>
<p>一色委員</p>	<p>コミュニケーション能力のところに関係しますが、図書活動について前回意見を言えなかった点がありますので、市の別子銅山記念図書館等には約30万冊の本があり市内の小中学校で多分20万冊ぐらいあるんじゃないかなと思います。合計50万冊ぐらいあるんじゃないかな。それ以上あるかもしれません。それをネットワークでつなげていったらすごい情報になると思うんです。各校で使いたい図書をネットワークで借りることができることができるんじゃないかなと思います。それをやっていくには市の図書館支援員さんが6名ですが、それだけではとても対応できないので、各校1名体制にさせていただいて、その方を中心にネットワークづくりができればいいんじゃないかなと思います。別子記念図書館でしているバーコードを活用できる小中学校は8校ぐらいしかありません。そこでスクールプロというソフトを導入させていただいて各校整備して、それをつなげて更に別子図書館とも共有できたら、子どもたちのコミュニケーション能力、読解力に非常に効果があるんじゃないかなと思って提案させていただきます。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>ありがとうございました。市の図書館と学校の図書館の有効活用、より活用効率を高めるためにネットワーク化を図る。そのために司書の資格を持たれた図書館の支援員さんを配置して有効に活用するという御意見。これについては②番のコミュニケーション能力と学校の立場で言えば、調べ学習にもつながりますので⑧番の学力向上のところにもつながっていくんじゃないかなと思います。かなり具体的な御意見ありがとうございます。他にございませんでしょうか。特にないようですので、今かなり一色委員さんの方から具体的な提案という形での御意見をいただいたんですが、一つ一つの項目を詰めていくにあたって、その詰めていく視点といいますか、我々の今から話し合う方向性について木村委員さんの方から御説明いただけたらと思います。</p>
<p>木村委員</p>	<p>取りまとめしました前回までの皆さんの御意見なんですが、今後、最終ワーキ</p>

	<p>ンググループの提案事項ということでまとめていくにあたりまして、ある程度項目を絞ってお話をさせていただきたいということで取りまとめました。今後この一つずつの項目、皆さんの思いという形の御意見、前回までに出たもので、この中にも来年予算さえ付ければすぐできるもの、また、中長期的に将来に向かっての方向性として、やっていかなければならないものが出てくると思います。この項目の中に来年からしたらいいよね、というようなものであったり、これは方向性ということでワーキンググループとしては提言していくというようなものに、それぞれ項目の中で、分けていく必要があるのかなと思っています。今各項目三つとか四つありますけど、もっと具体的に、こういう事業を思っているよ、というような御意見もあればと思いますし、いい項目なんでこれは中長期的には、こういう方向で考えていくべきじゃないのというような御意見も新たには出てくるかとは思っておりますので、話の内容を各項目で絞ったお話をさせていただけたらと思います。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>今、御説明いただいたように具体的に来年度どう取り組む、あるいは今からの方向性として、市の政策懇談会の方に提案させていただくというような形での話し合いという御説明でしたけども、そういった形で9項目を一つずつ御意見いただけたらと思います。①番目なんですけど施設・設備等の環境整備ということで、ここには5個御意見が出ています。この5個についての御意見でもよろしいですし、施設・設備だったらこういうこともというのもございましたら、そういう御意見もいいんですが、いかがでしょうか。</p>
<p>木村委員</p>	<p>事務局として皆さんいろんな学校訪問されたりしたことあると思うんですが、現状の施設について、どんな印象をお持ちかというのがあったら、というのは綺麗になってるよねとか、手が回ってないよねとか、どういう印象をお持ちでしょうか。</p>
<p>今西委員</p>	<p>小中学校の図書室へよく行くんですけど図書室というの、ほんとになんかこう、備品にしても使わなくなったようなものを図書室に置いて、なんかほんと本読めるような環境じゃない。もうちょっと図書室を整備して図書室に行きたいなという図書室にとりあえずはと思うんですけども。それともう一つは小中学校のエアコンとかいうのは全然考えてないんですか。</p>
<p>木村委員</p>	<p>逆に委員さんの思いとしては今の小中学校というのは、そろそろエアコンみたいなものがあるべきだよ、というような印象ですか。</p>

今西委員	夏なんか勉強のできるような状況じゃないですね。冬はストーブでいけるけど。
渡邊委員	図書館にエアコンを完備して週に何回かは図書館で授業をする。そういう取組ってというのは図書館の有効活用、国語の時間などに図書館で授業をする。先進地域ってというのはそんな感じで有効利用している学校が結構あると思います。
木村委員	一気に各教室全部ってということじゃなくて、一部の教室を整備して調べ学習で図書館を使うときに週に1回か2回は子どもたちが、そこで勉強ができる状況を作るということですね。
一色委員	賛成ですね。
渡邊委員	各部屋一気にエアコンを付けると、あっちの学校はできていないのに、こっちの学校は付いている、になってはいけないので、今年は全学校の図書室にはエアコン付けます。そんな感じが、やりやすいのかなって思います。プラスアルファとして図書館の有効利用というところも考えれるんじゃないのかな。
浦江座長	エアコン付けたら確かに利用率あがりますよね。
渡邊委員	本のためにもいいと思うんです。
浦江委員	ありがとうございます。先ほど、ちょっと物置に近い状態とか、有効活用のためにエアコンを付けてということが、図書館の新しい形での利用じゃないかと思います。今、図書館についての御意見が出たんですけど他に図書館関係でもいいですし他の施設設備でもいいですし。
森委員	他の施設なんですけど、ちょっと気になっているのが公園とか子どもたちが遊ぶ所に、防犯カメラが付いているとか、付いていないとか言ってるんですけど、今、実際新居浜でどれくらい防犯カメラが付いているのか、私たちよく分からない。地域の公園で防犯カメラを設置しているのは、大体トイレをいたずらされるので設置されているような状況みたいなんですけど。地域で子どもが安心して遊ぶためには人の目が一番ですけど、今からは防犯カメラの設置を考えていかなければいけないんじゃないかなと思います。
渡邊委員	新居浜市で約400か所あると警察の方とお話したんですけど、少ないんで

	今後どんどん警察は企業さんとかに言って増やしていくみたいなことを言っていました。
木村委員	公園の実情は事務局では分かりづらいのですが、小中学校について付いてますか。
加藤委員	学校によります。付いている所と付いていない所があります。
坂上委員	地域防犯のカメラは、警察と連合自治会と市と商工会議所がやりよんです。やはり今ところはコンビニとか新居浜駅には付いている。河川敷とかを要望しとんですけど、今のところは地域では個人情報の問題が解決せんと地域の方にはなかなか付くのが難しいなというのが今の状況。やはり小学校、中学校の玄関には、松山市あたりも問題があったりしましたが、やはり新居浜市では防犯カメラというのは子どものために設置するのはえんじゃないんかと思います。
渡邊委員	今防犯カメラは企業に外向きのカメラをということを警察の方もお願いしに回っている状況。お金のこともあるし、助成金もないんで企業も次のときにみたいな感じで進んではないとは聞いています。
木村委員	学校は必要に応じてバラバラなんですね。
浦江座長	防犯カメラを設置しているのは、中学校は半分までではないと思います。南中は設置しています。東中、船木中はしてなかったと思います。泉川中はしとったと思います。全部は把握していないんですけど。今の御意見、公園とかトイレ等での犯罪被害のことを考えたら防犯カメラの設置というのも大事な課題になってきます。
坂上委員	行政として考え方はどんなんですか。やはりこれ改修せないかん、今言われる図書館がという話もあるんですけど、行政としては予算的な面とか、どういう考えで今おられるんか。そして今からは行政としてはどうしたいのか。このワーキンググループの話を聞いてからしようとするのであれば、やはり次から次遅れるような感じがする。やはり行政の方で思っていることを先に出してもらってワーキングの方で、これはこうだというような話せんかったら行政の方が、何も出てこんとやっぱりこっちの話聞いて、それから予算組してしましようかというような形では遅れるんじゃないですか。やはりもう少し行政の方の考え方を新居浜市は教育に関しては、こうですようというのを、やはりちよっ

<p>木村委員</p>	<p>と聞かせてもろた方が話すにもしやすい。</p> <p>新居浜市内の小中学校については大体昭和50年代には建て終りまして、現在のところ耐震工事も小中学校全部済みました。古いものについて今度大規模改修ということで、建てたときと社会情勢なり、子どもの成長も変わっていますので、内部の大規模改修を次にしていきたい。行政としては次は大規模改修に取り掛かりたい。ただこれは補助を受けるにあたって、いろんな条件があって、その条件をクリアできた学校からしていきたいとは考えておるんですが、計画的に毎年1校2校やれるっていう状況に今はないという状況です。体育館については、耐震はできているのですが基準がありまして吊りもの、吊り天井であるとか、そういうものが大震災のときに崩れたという実情がありますので今後は点検して、吊り天井等の改修に掛かっていきたい。事務局として危惧しているのは通常の管理の部分で、どうしても後回しになってるものがあるというのは、事務局としては心配事ではあります。というのは台風時に各小中学校から体育館の雨漏りがあったり、普段修繕の中で改修はしているんですが建ててから時間が経っていますので、修繕費に多額の費用がかかっているのが現状です。それと今やっているのが、小学校中学校で運動場排水ができていない所については運動場排水もやる。社会体育で行います防球ネットと照明については、一昨年辺りから補助でできるものは補助で、単独でやらないといけないものについては起債等の財源の確保ができるものからやっております。防球ネットは計画では、ここ数年で終わるかと思えます。現状は以上で、新しいもの、さっき言われた図書室へのエアコンであるとか、ということまでができる状況には現状のところはありません。</p>
<p>坂上委員</p>	<p>やはり難しいですね。でも、話は聞いておかないと、聞いてワーキンググループでそこはこうしたらいいとかをまとめていかないと。言いはなしで何も返ってこなかったら何にもならない。どうもありがとうございました。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>今説明していただいた訳なんですけども、市の方で考えてくださって学校の施設設備等についても整備していただいておりますけども、例えば図書館のエアコンでありますとかネットワーク化に向けた取組というのは、あくまでこの話し合いで話し合った内容を提議させていただいて、それで実際取り組んでいけるものからということになるかと思えます。そういった考えの下でいろいろご意見出していただいて、さっき木村委員さの方からもありましたけども来年度早速ということもありますし、これ例えば大学をつくるというのは、予算という問題だけではありませんので、そういうことを目指して今から考えてい</p>

	<p>くということになっていこうかと思いますが、そういうとにかく提案を市の政策懇談会の方にさせていただいて、そこでまた予算等のつくものについては実現されていくということでの御意見だと思います。今新しく出ましたのが図書館と学校も含めて公園やトイレ、そういった場所での防犯カメラで子どもの安心安全というようなことが新しく出てきたんですが、他にこの施設・設備で御意見ございましたらお願いします。</p>
<p>一色委員</p>	<p>パソコン関係で、5年ごとに新しくなっていくんですね。来年がその時期になっていきますよね。小中全部ですよね。現場ではタブレットという声が上がりがちあるんですけど、実際そのタブレットがほんとにいいものかどうか。それを使うとなったら当然制度も変えてもらわないかんし、セキュリティの問題もあるしタブレットの先進校、他県の話もあまりぱっとせんし、もしそういう現場の声もあるので、今後5年かけてタブレットが現場で使えるもかどうか、これから研究していかないかなあとも思います。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>タブレットですけど現在の新居浜市のセキュリティでは入れることができません。各教室のセキュリティは、タブレットの対応ができてないので、今の段階で教室でタブレットを使うことはできないので、来年度に向けたパソコンの変更ではそこまではできない状況にあります。次回の変更に向けての研究の一番にタブレットはなと思うんですが、全国的に先進校での取組が始まった段階ですので、もう少しその様子を見て研究させていただいて、次回の更新のときには検討にあがるのかなという進捗状況でございます。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>ありがとうございました。今ICTについての御意見がございましたけども、他にこのICTの面での御意見ございましたら。ちょっと司会を離れまして中学校で出てたんですけども、以前英語教育でLL教室というのがありましたよね。特別に部屋があってそこでいろいろ機器を使って学習を進めていく。英語教育に限らずいろんな先進技術を使ってお互い情報を共有化する。それとまた発表をICT環境の機器を使って発表していく。そういう教室を各学校に1教室ずつ作っていただければ空き教室というのは大抵どの学校にもございますし、そういう機器の使い方の学習にもなるし、情報の教育とかプレゼンの仕方、そういったものを子どもたちが学べるのではないかという意見がございました。ただこれは一気には無理だと思いますんで、そういう取組を小学校あるいは中学校で順次進めていただけたら、ありがたいなという意見が中学校の校長会としてはありました。</p>

橋川委員	<p>I C T機器は使わないといけないというのは、よく分かりますし、これを道具として有効に使うというのは重要なことだと思うんですけど、あくまでこれは手段だと思うんです。これを使って目的として何をやるかというところが重要なところで、例えば何かを調べる手段の一つとしてI C T機器があったり、図書館があったりという中で、自分たちが選べるという選択肢が広がるという意味が重要だと思うんですね。それを使うことが目的ではないということをきっちりしておかないと、今の話だと使うことが目的になってしまって、それを使って、さあどうするのといったときに子どもたちは、じゃあどうしようかというのは分からないままに、そういう有効な機器があるね、なんか使えるやつがあるねというだけに終わってしまうんじゃないのか。上に目的があって、それらを使って何かをするところをテーマとして、どんどん与えて行かないと、結局は宝の持ち腐れになってしまうところがあるかと思うんです。そこはやり方がI C T機器ありきではなくて、やはり一つ上のところを目指した上でやらないと、結局身につかないままに終わってしまう可能性があるんじゃないかなという気はします。</p>
浦江座長	<p>その機器を使って何ができるかというよりも、何をしたいからその機器を使うかということですね。</p>
渡邊委員	<p>特に今の子どもたちは勉強はするんですけど、全体的に伝える能力が少し低いなど。日本人特有のはにかみ、みたいな感じになってしまって伝えれない。思いが伝えれないというのがある。だからこういう機器を使って、こういう機器なら僕は説明できるだとか。そういうふうな新しいステップアップの材料にしてもいいかな。伝える勉強をするために揃える機器っていう形で新しい取組をしたらいいいかなと思います。</p>
吉田委員	<p>この施設や設備の環境整備の中でですね、子どもたちに環境を良くしてあげるという発想もいいと思うんですけども、今ある設備を子どもたちと一緒に維持して環境整備をしてですね、そこからなんか学んでいくというような発想ですね、そういったものもあってもいいじゃないかと思うんですけどね。一度泉川小学校のP T Aさんが中心になられて、小学校4年生の子どもたちと一緒にトイレ掃除をしたことがあるんですけど、子どもたち必死になってトイレを磨いておられましたんで、そういったトイレ掃除とか掃除とか学校の施設を維持する環境整備ですね、そういったものに教育という面と地域の協力という面とかみ合わせると何か一ついいものができるのではないのかな、そんな思いがいたします。今までの話と全く違う意見ですけども。</p>

浦江座長	今の御意見は、維持していくための環境整備で、教師、生徒、児童それと家庭、P T Aの活動と地域の方も含めた活動ですからね。今P T Aの親子奉仕作業で協力していただいているんですけども、そういうのをもう少し広げるというか拡大していくということの御提案ですね。
吉田委員	それで子どもたちの教育っていうか、気づきが広がるんじゃないのかなという思いがいたします。今ユネスコの代表で来てますけど一企業の経営者なんで経営者の立場から言うと環境整備は仕事上で大切でしてですね、そうすると整理整頓とか掃除とかいうのが、業務の中でも非常に重要なところを占めてまして、それを考えると子どもたちと一緒に、ちっちゃいころから学んでいくというのは非常に重要ではないのかなという思いが最近してまして言わせていただきました。
浦江座長	三者が連携して子どもたちのそういった能力というか感性を育てていこうという御意見ですよ。ありがとうございました。
渡邊委員	企業も学校もそうですけど、最初掃除して帰るときも掃除して帰りますんで、障がいの事業者をやってるんですけど、障がいの子も掃除に始まって掃除に終わって帰ります。
一色委員	日本の教育の原点だと思います。
木村委員	橋川委員さんがさっき言った道具の先についてということで、先進地を見に行った学校がございまして、そこがE S D教育で自分たちで自分の周りのことを調べて、それを2クラスが入り混じって何班かに分かれて相手にプレゼンをする、発表するというのをI C T機器、電子黒板であったり、タブレットで画面に映すという、自分たちで調べて第三者にそれを理解するように発表するっていうことのツールとしてI C T機器を使っているという状況を見てきたんです。新居浜の場合、電子黒板であったり、無い学校については発表するにあたっては昔からやっている紙に大きくみんなで書いて前に貼って発表する。時間的な問題があったりするのでI C T機器があればもうちょっと早く発表ができた、そういうツールに今の子どもたちは慣れているんで、そっちの方が作りやすいというのがあって事務局としては、モデル校を作って、ちょっとずつで入れてるんですが、なかなか学校もたくさんあるんで追いつかないという状況が現状です。

<p>浦江座長</p>	<p>学習効率を上げる上で全然違いますからね。自分たちで話し合ったことを、とりのこ用紙に書いて、それを貼っていうたら小さく書いているのは、せっかく書いたものでも後ろの方の子どもが読めなかったりだとかしますんで、そういった面で意思の伝達の器具を揃えるということは、今からどんどん必要になってくるかなとは思いますがね。</p>
<p>渡邊委員</p>	<p>器具を揃えるのは全然大丈夫と思うんですけど、やっぱり原点のとりのこ用紙に書いてってというのは低学年の時期ぐらいには必ずしていただいて、掃除に始まって整理整頓もあって、後一つは使い捨て世代、時代と言われてるんで、昔鉛筆なんかは短くなるまで使ってたとか、そういう、うちの子もそうなんですけど、消しゴムが半分ぐらいになったら、もう違う新しい消しゴム欲しかったりとか、折れたらすぐ捨てちゃう。修理をしない使い捨て世代になってきてるんで、それじゃちょっと地球環境の方も少しずつ気にしながらというのもあります。これは12年間使ってくださいよ、という筆箱を最初に渡すとか、文房具屋さんで悪いんですけどほんと使い捨てじゃない、もう味っていいですかね、四隅がぼろぼろになったような、でもやっぱりこの傷は、昔こいつにやられたんや、みたいな感じの思い出ができたりしてんじゃないかなとは、そういう使い捨てを脱却するための世代づくりの教育が必要じゃないかなと思います。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>さっきの環境整備のための清掃活動に子どもも取り組む、大人も協力して教えていく。一緒に活動することで、後姿を見て育っていく。それと、ものを大切に使う。全て共通のところですよ。</p>
<p>木村委員</p>	<p>具体的な御意見はこの場でいただいて、提言としては確かに提言になるような言い方をしますが、普段の事務局の職務の中で直せるものは直していく。改善できるものは改善していく。この前いただいた文センのトイレなんかについてもすぐには修繕はできないとは思いますが、できることから普段の事務の中でやりますので意見は意見としていただきたいと思っております。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>施設設備で今ICTの問題と図書館整備の問題と、それと学校の設備じゃないけども、子どもを守るために防犯カメラの設置というような御意見をいただいております。他にそういうのがございましたらお願いします。図書館の方で言うと具体的なエアコンでありますとかネットワーク化でありますとか図書館支援員さんの配置でありますとか、提案しやすい具体的な意見が出てき</p>

	<p>たんですけども、それと子どもの安全安心のための防犯カメラですよね。それと予算がという問題ではないんですが子どもと大人、教師、地域、保護者が一緒になっての環境整備、物を大切にする心を育てていこう。というようなご意見をいただいたのですが他に御意見いただけたらと思います。</p> <p>②番目のコミュニケーション能力の育成、話す力をつけていくためにどうすればいいかというところで、先ほどもこれについて関連した御意見有りましたが、ここでの御意見をいただけたらと思います。先ほどと同じように、こういう予算を付けて、こういう事業という話し合いもありましょし、中長期的に地域あるいは家庭、学校三者が協力してこういった活動を展開していけるのではなかろうかという御意見でも結構だと思うんですが、コミュニケーション能力、話す力の育成していくためにどういったことが必要であるか、こういった取組ができるのではなかろうかという御意見をお聞かせいただけたらと思います。</p>
木村委員	<p>現在の状況を若干説明させていただきます。先ほど図書館支援員の話が一色委員の方から出てたんですが、支援員として今は6名市立図書館の方に非常勤職員がおります。支援員は希望のある小学校中学校の学校図書館の整備、図書の整理であるとか、貸し出しの方法であるとか、後、普段の授業の中の調べ学習という図書を使って調べる学習に用いることのアドバイスを、図書館支援員が学校の教員の相談を受けながらやっています。全ての学校にいないので、一色委員さんの方から出てたように、もっと支援員を増やして学校の図書室の整備であったり、調べ学習の充実が必要だと思っています。コミュニケーション能力ということで今年特に教育委員会としては、挨拶をしっかりとということで目標を掲げさせていただいております。いろんな委員さんから3S運動であるとか、さんさん運動であるとか挨拶に関する運動に関する提言をいただいているので、是非あいさつ運動というのは入れていきたいなと思っています。英語に関しますとALTは3名いて、日本人の英語指導員も3名おまして各学校の英語教育の補助をしているという状況です。いただいた意見の現状はそういうことになっております。標準学力調査で全国的に統一テストがされているんですが、全般的に新居浜の子は読解力が弱い部分があります。</p>
横井委員	<p>言語能力とか読解力とか表現力の面では若干劣っている面があります。学年とかによっても違いますけど。</p>
渡邊委員	<p>全体的に読解力が低いというのが新居浜の傾向の一つですよね。</p>

木村委員	そういうのもあって図書館を活用した活動は有効ではないのかなと個人的にはすごく思っています。
渡邊委員	十何年ぐらい前までは市の方が単Pの方に図書支援費というのを毎年給付してたというのを聞いて、各単Pの方で司書さんというのをPTA事務員さんと一緒にしてたというのには聞いているんですけど、そういうふうに、そういうお金が出るとしたら手っ取り早く各学校に一人ずつというか。そういう制度は昔あったような気がするんですけども。
木村委員	今各学校によって違うんですか。
渡邊委員	PTAとしては多分そこまでのお金は出ないというのは間違いないことなんで、市の助成金の中に各単Pに雇用してくださいね。ていうお金が下りてて、十年ちょっと前ぐらいに打ち切りになった。災害の後に災害でお金がかかるので補助金が無くなったのは聞いているので復活してもらって、また大きな災害があれば切ってもらっていいんですが。
木村委員	PTA雇いの図書館司書ですね。
森委員	実際はPTAの事務さんが兼ねているところあったんですけど、その活動もしてくださいということで給料を加算して出すようにしました。
渡邊委員	復活すれば一人ずつ増やすのではなく一気にできていいのかな。まあ予算のときに考えていただけたらと思います。
浦江座長	という意見がございます。また予算のときよろしくお願いします。
渡邊委員	今まで有ったものがなくなったんで、まあ無くなって十年経つんでリセットされていると思うんですけど、もしできたら。
浦江座長	先ほどあった市としての図書館支援員さんの配置という考え方もありますし、そういう各学校の単P単位での人員の確保と、確保における補助金を出していただいて活動を深めていく。両面どちらがどうか、手っ取り早いのは単Pの方が、ただまあそういった面も考慮に入れて、いろいろ難しいところもあるかと思いますが是非検討していただけたらと思います。先ほど市としても挨拶いうのが出たんですけども、ほんと挨拶は大事だと思うんですよね。例えばほ

	<p>んと一回、二回の会で挨拶についていろいろお話いただいたんですけども、市として例えばこういった取組ができるんじゃないかなろうかというようなのが、何かあまり具体的でなくてもいいんですが、ただ挨拶を活発にしよう、挨拶日本一にしようという合言葉だけではなかなかと思うんです。なんかちょっと姿がはっきり見えなくてもいいですけども、影がちらつくようなことを、この会として提言できればとは思いますが、いかがですか。</p>
渡邊委員	<p>大人がしないから子どももしない。</p>
浦江座長	<p>大人同士も結構挨拶しにくいですね。私の地域は南高校の生徒さんが挨拶最近よくしてくれるようになって、高校生とすれ違ふと挨拶してくれる。こんにちはと言われるとこっちもこんにちは。次に大人同士ですれ違ったときも、こんにちはを言う。挨拶になってくるんですよ。そういうのを自分の学校の子どもにも話させてもらって、挨拶を地域に広めるのはみんなの力じゃけん、とは言ってるんですけども、ここの提言としてはちょっと違うとは思いますが、なんかそういう意識を少しでも高める手段があればとは思いますが、いかがですか。</p>
横井委員	<p>今年教育懇談会で、その話題でほんとに参加されているどの校区、どの地域も挨拶についてはすごくやってるんだなという実感と、そして皆さんの協議も結構活発にされて意識も高く持たれているんだろうなと思ったんです。私自身の思い付きなんですけど、例えば今もあるのかもしれないですが、学校の近くとか公民館の近くとか、ここはあいさつ通りというか、それぞれの近くにあいさつ通りっていうのがあって、ここはまずは誰に会っても挨拶をしましょう。というようなあいさつ通りなんかをたくさん新居浜の中にできれば、そんな標示をしたりすれば、一つの契機となるんじゃないかと思うんです。私自身、朝市役所の駐車場が少し離れているのですが車を止めて歩いて来るときに、できるだけ声をかけようと思うんですけど、先ほど浦江校長先生が言われたように、ちょっと声かけにくいときもあるんですよ。できるだけ大人も子どもも挨拶しようと思うんだけどなんか掛けにくい。でもここがあいさつ通りとなったらほんとみんながしやすというか一つの機会になるんじゃないのかなと感じます。</p>
浦江座長	<p>それが広がって行って、あいさつ通りというのは面白いですね。</p>
橋川委員	<p>内内で評価し合うというのは難しいところはあると思うんです。外からの評価があったときに、みんなそう思ってくれるんだということを思えば向上につながる</p>

	<p>がるような気もするので、駅前在所にアンケートを置いておいて、観光客の人たちにも印象どうでしたみたいな形で書いてもらうことで、挨拶がありましたとかですね、そのような外部評価として上がってくれば新居浜市をいいふうに見てくれるな、というようなことをみんなが思うようになって、それで挨拶をしよう、もっと新居浜市をよくしようというところで、うまい仕組みができれば、より新居浜市の価値が上がるのではないかな。</p>
一色委員	<p>新居浜を宣伝しているトラックが走りよるじゃないですか。2台ですかね。結構全国的に評判がいいんで、是非ああいうのに「あいさつ日本一のまち」とか入れてもらったら、外から攻めるということで。</p>
浦江座長	<p>確かに外部評価、来てくださった方に人との接し方、挨拶の声とか笑顔とかいうことで評価していただくというのは本当にありがたいですよ。昨日鶴瓶の家族に乾杯、私好きで見てるんですが、どの人に会っても鶴瓶さんが笑顔で接してくれる。その笑顔いうのをかなり強調して昨日の放送でもあったんですけど。そういう評価がいただけるような努力、その評価をすることで育っていきますよね実際。</p>
橋川委員	<p>小さくてもいいんです。それがちょっとなんかに出たときに、次はもっと頑張ろうと次のステップアップにつながるような話になればいいのかなと思っています。</p>
浦江座長	<p>あいさつ通り、外部評価、駅その他いろいろ場所は考えられると思うんですけど、アンケートを取ってということもあったんですけども、その他この挨拶についてあいさつ日本一を目指そうという掛け声の下にということ。</p>
渡邊委員	<p>歩道とかを明るい色の舗装みたいな感じのやつで、この色を見たら誰でもいいから挨拶をする専用道みたいな。緑の舗装は挨拶の通りだとか、そんな感じになっても面白いのかな。</p>
森委員	<p>市内評価ということで、学校なんか子どもが外部ですごくいいことしたらその方がお礼でお電話とか、お手紙とか受け取ることがあると思うんですけど、あんな感じで市役所のホームページであるとか学校のホームページで、挨拶のいいねのポイントを貯めれるとか、地域の人が簡単に、今日は多喜浜小学校の生徒さんが、ここですごく素敵な挨拶をしてくれました。というような投稿ができるような。挨拶いいね効果、そういうようなことをしてみたら、子どもたち</p>

渡邊委員	<p>はやっぱり認められたらまた次頑張ろうと思って、そういう使い方もあるのかなと思います。</p> <p>小学校のサッカーなんですけど、審判はレッドは持ってなくてイエローは持っててグリーンも持ってます。いいことしたらグリーンを出す。この子こういうふうにしたから怪我しないで済んだんだね、グリーンカード。いいことしたね。で、カードを先生方もいいことしたねで意思表示をできるのも面白いんじゃないのかなと思いますね。</p>
浦江座長	<p>外部評価だけでなく我々自体が子どもの励みにもなりますし、地域としてもその地域に寄せられる内部評価、この地域ではほんと挨拶が聞こえるだとか、いろんな方に挨拶をいただいたとか、笑顔で接していただいたとかというのがあれば、うちの校区は胸が張れるな、というような自分たちでの励みになったり目標設定になったりすることがあると思います。</p>
渡邊委員	<p>そういう一つのツールにすると子どもたちが今日は三つもらったよ、明日は四つ頑張ろうみたいな、そういうふうな子ども同士の競争が始まる。そうするとものすごく活性化できたりして、じゃクラスで、クラス対抗で、学年対抗で、じゃあ学校対抗で何パーセントだったりとか、いろんなものに役立てれるので面白いのかなと思います。</p>
今西委員	<p>子どもはやっぱり地域の人とも顔見知りになると挨拶しやすいくなると思うんですけど、やはり子どもと一緒に活動できる行事とか、またボランティア活動とか見守り隊とかを、多くそういう仕組みを取り入れることで、子どもが自然に大人になつてくれると自然に言葉が出ると思う。我々もできるだけ地域の人と子どもと一緒に活動できるようにしている。いつの間にかだんだん挨拶のできるようになってくるんじゃないのかなと思います。</p>
浦江座長	<p>先ほどの環境整備のための交流もありますし、地域で行う交流活動もありますし、たくさん出していただいたんですけど、他にもいろいろございますが他の項目等での御意見あるいは、ここの項目にない御意見もいただけたらと思います。</p>
橋川委員	<p>一つ質問という形でよろしいでしょうか。英語教育が前回もいろいろと言われていたと思うんですけども、今までの英語教育をやられたレビューというかです。その辺でどういうふうに考えておられるのかということ、今までの</p>

横井委員	<p>英語教育を続けている中で今後どうやっていくかということも含め、今の状況を御説明していただけないかなと思ったんですが。</p> <p>英語教育については、かつては受験の中の大事な教科という形での取組が多かったかと思うんです。文法とかを大事にして教育はしてきたけれども、問題になったのが中学校から以降大学まで英語の授業を受けてきたけれども、実際海外に行ったときのその英語が使えないという問題がありました。近年になってコミュニケーションが大切で、そのためにネイティブな発音に慣れなくてはいけないということでALTを呼んできたりとか、あるいは昔と比べたら会話と表現、そこを大事にする英語の教育には変わってきたかと思うんです。それプラス今度はその早期教育ということで小学校に外国語活動を取り入れて、まだ評価はしないけれども、とにかく外国語に慣れさせなければいけないということで5年6年で実施しています。学校訪問で見ることが結構あるんですけど、ややゲーム的なことで英語活動をしたりとか、自己紹介をして相手の好きなものを聞いたりとかペアあるいは、そこにいろいろな人と英語で会話をする。そういうことが進められています。これからの流れとしては今度はそれが小学校5、6年生は教科になって、そして外国語活動としても今度は小学校3、4年まで下りていくというそういう流れになっているというのが現状です。</p>
橋川委員	<p>我々も受験世代ということで、もう全くの受験英語しかやらなかった。ところがそういう形で5、6年前から会話、コミュニケーションも含めた英語力を上げないといけないというところで外国人を呼んできたりをやっておられる中でその辺の成果といわれたらどういうふうに答えるのか。ほんとそれ意味があるんでしょうかということになってしまいうんですけど、その辺をどう評価されているかということをお聞きしたい。</p>
横井委員	<p>今は、かつての点を取るだけじゃなくて会話ができる、コミュニケーションができる。そういう人の育成ということで、どのくらいの成果が出てきているのかというのは、勉強不足で私自身見たことはないんですけど。</p>
橋川委員	<p>ただ単に呼んできて、じゃあ英語の先生になんか知らないけど、とりあえず遊びでもかまんから英語で授業せいやというだけのものだったら、ほんとにそれが意味があるんでしょうかということにもなるんですけど。</p>
横井委員	<p>英語の教員については、教員の英語力を上げなければいけないということで試験を受けさせたり、あるいは今言われているのは、中学校については英語で授</p>

	<p>業、高校は今していると思うんですけど教員が英語の教科は英語で授業する。というような方向性で、子どもたちが英語に慣れ親しむ、そして英語で言われたことを理解して表現するということについては、かなり私たちの時代に比べて子どもたちは英語に慣れて、コミュニケーションはできるようになってきていると思うんです。今学校訪問とかで見るとは丁度過渡期で、英語で言って日本語でも言う先生が割と多いです。まずは英語で子どもたちに指示をして、その後日本語で補足していくという形で進めていって私自身は今の流れというか国際化の流れの中で国際理解にもつながっていくと思っております。</p>
橋川委員	<p>最終の到達としては、当然英語で全部コミュニケーションできるというのが最終の到達点であり、日本語を介さずにやれるというのは、そうだと思うんですけど、例えば小学校5、6年生までどこまで要求するんだということになった場合に、今言われたように英語で言われたことをとりあえず理解して、日本語でもかまんから返答できればいいやというところなのか。いや違う。やっぱりもうちょっと日常会話ぐらいはできるようにするのかというところで、その成果としてなるのか、なんかその辺が曖昧なまま、とりあえず外国人来たから外国人の先生をあてがえたから、やれよということだけで、ほんとに英語力が上がるんだろうかというところが非常に疑問で、果たしてそれでいいのかというのがある、この5、6年やってみてその感想はどうかというところを詳しく聞きたかったところではある。それがないとALTやりますというだけでは全然今までと進歩が無いような気もするので、反省を踏まえた上でこうすべきだというのがあって然るべきかな。「新居浜市の教育」を読ませていただいただけですけど、その辺が見えてこなかったところもあるので、言うだけのお題目で終わってしまっているような気がしてしょうがないですけど。</p>
浦江座長	<p>英語を使ってやる必要があるかどうかは分からないんですが、私が聞いた小学校での英語活動チャンツというのがあるんですけど、いろいろ楽しく体を動かしながら、そういう中で日本語でやるときの積極性と英語活動、英語で単語しか話せない、ほとんど会話にならんけども英語を使っての活動での積極性と、子どもの状態、それをしとった学校としてなかった学校では全然積極性の育ち方が違うという統計が出とんです。なんで日本語じゃいかんのぞとは思いますが、そういった活動の成果は小学校の活動としては出てきています。今から英語を教えるとか、英語を使うというのはもちろん大事なんですけども、それ以上に積極性を養っていく、コミュニケーション能力を養うためには人の考えを聞いて自分の考えを自信を持って発言するっていうか、そういった中での英語の力、こんにちとはハローというニュアンスが違うじゃないですか。そ</p>

<p>一色委員</p>	<p>ういったことも目標の一つにあると思いますし、そういう成果が上がっているのは間違いないみたいです。</p> <p>十何年前になるんですけど、小学校で英語うんぬんいうときに、教育特区の申請をして、それが認められて神郷で取り組んだですが、そのとき開発したのが45分を三つに区切って15分、15分ごとにやることを決めて取り組んできました。英語の力というのは、これから必要とされる最も大事なものであると思いますので、文科省がそういう方針でいってますので、我々としてはそれに従うしかないと思ってます。文科省が言ってるのは次の学習指導要領改訂で小学校では英検四級を目指す。中学校では準二級程度を目指すというかなりハイレベルの英語をやっていくことになると思います。小学校は専科がないので一番大変なのは小学校の先生、これからは英語の免許持ってなかったら小学校の先生も難しくなっていくだろうというような状況じゃないかなと思います。そういう中で子どもたちが英語と触れて自分で英語で質問したりできるっていうのは、ある意味評価できることじゃないかなと思います。その積み重ねが無かったらこれからの社会に対応していけないし、新居浜から出て行って活躍することもできないと思います。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>そういうコミュニケーション能力を付けるために英語教育が大事である。あるいはまずは日本語教育が大事であると出とんですが、具体的に英語でもいいですし日本語でもいいんです。そのコミュニケーション能力を高めるために、こういった取組を学校でもいいし、家庭でもいいし何か提言として出せばとは思うんですがいかがでしょうか。コミュニケーション能力は大きいとは思うんです。まずは挨拶ですけども次の段階として。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>コミュニケーションは聞く力が必要と思うんです。ですから傾聴能力を高める教育が大事だと思います。私が知る範囲では、お互いいろいろ話し合ってますね例えば二人一組になって何組か話をして、その話をした人の話を要約してみる。そうすると傾聴能力が高ければ高いほど要約がしっかりできますので、そういうような学びというか、訓練というか、そういったものをされるとよろしんじゃないのかなと思いました。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>学校で取り組んだり公民館等でもできますし家庭でもということですよ。聞いてそれをまとめる力。聞く力ですね。</p>
<p>橋川委員</p>	<p>P T Aの図書館の活動の一環として見学した、島根県の揖屋小学校が図書館活</p>

	<p>動をやって、そこは中学校までの9年間を区切って目標を一年ごとに作って、そしてクリアして行って最終的にはお互いリベートをやる。お互いに自分の意見を戦わせる大会みたいなのを個人個人でやるようなところができる。そのように目標を最終的にあげて、そこに至るにはどうやって1年生ではどこまで、2年生ではどこまでやればいいかを図書館の司書さんとともにプログラムを組んで行って小学校全体で取り組んでいる。1、2年生は当然議論を戦わせることはできないですから、まずは自分で調べるために、本を読む、自分で調べたいところを調べてきて報告書をつくる。今度は社会問題を持ってきてお互い話し合っ、それで積極性がでて自分に自信が持ててコミュニケーションがとれる。</p>
渡邊委員	<p>2年生は1年生に発表して3年生は2年生に発表してっていう、そういう1歳下の子に発表してあげる。そしたら2年生は3年生を見て来年になったらこういう発表をしたらいいかというのが順々順々分かりだすというようなこともやりました。</p>
一色委員	<p>小学校に専属の図書館の先生が2名か3名おるんですよ。ほんとの先生、教諭免許を持ってなおかつ司書教諭の免許を持って、その先生が中心になって教育課程を組み直してやっているの、それはすごい成果を上げている。でも、そこだけに正規の職員を2名3名配置するのは特区じゃない限り難しいとは思っています。</p>
浦江座長	<p>やっぱりさっきの図書館の活用とかなりオーバーラップしてきますよね。予算面のこともありますけども、やっぱりそのところ大事にはなってくるとは思いますね。</p> <p>③番以降は次に回させていただけたらと思いますんで、今日は②番までということでご意見いただけましたら。進行の不手際で九つある内で二つまでしか今日できないというほんと申し訳ございませんが、一時間半という時間を消費してしまいましたんで今回は②番までということにさせていただけたらと思います。次回までに③番以降をもう一遍見直していただいて御意見いただきながらまとめていけたらなと思いますので御協力の方よろしく申し上げます。</p>
木村委員	<p>今日①番、②番ということでお話しいただいたんですが、いろんな御意見の中にほかの項目にもかかわる部分もございますんで他の項目のものはそちらへ足していきたいと思えます。最終的に全部終わった時点で皆さんの御意見をそれぞれ入れ直すという形を事務局の方でさせていただきたいと思っております。</p>

浦江座長	す。 ありがとうございます。他に特にというのございましたら。次回の提案等でも構いませんので何かございましたら、無ければ事務局の方から諸連絡をお願いします。
------	--